

定点観測◎拡大版

北海道——3・20統一行動IN札幌 街角ピーストーク 谷上 隆

先回七月に書いてから早四ヶ月。暑い夏から季節はもう冬。やっぱり

この二〇〇三年、米国はイラクに侵攻開戦し、その後長期に渡るイラク戦争に突入、翌年四月に、三名の拘束事件が起きた。そのうちの二名は北海道の若者で、一名は我が街の人である。あの時は夜も寝ずに走り回った。あれから九年を経た。戦後初めて自衛隊が派兵されたのもイラクの戦地であった。その自衛隊がこの北海道の地から出発した。室蘭港から、航空自衛隊千歳基地からも。ほっかいどうピースネットは、その時に結成され、統一行動の一翼を握って来たのである。米英軍は形態を変えつつもイラクに続き、アフガンにも侵攻、殺戮を繰り返し、劣化ウラン弾などで無垢な子供達や、無防備の一般市民が犠牲となり、中東への混乱をもたらしながら、新たに、イランへも介入を求めつつある中、海兵隊の人権を踏みにじる残虐行為が暴露されるなど。9・11を口実としながらも、戦火を拡大しつつ、さらには、中国や朝鮮半島にも敵対行為を企てている。自衛隊は防衛庁から省へ変革を遂げ、都市型テロリスト対応戦闘訓練施設が、東千歳駐屯地内に設置され、テロリスト対峙訓練が常態化されるなど、現状形態から変革しつつある。

武器輸出三原則は踏みにじられ、PKOと言う名の海外派兵が拡大され、南スーダンへもこの北海道の部隊が派兵される。自衛隊の迷彩服はイラク派兵以後常態化され、東北大震災の震災地でも、迷彩服のままの姿がマスコミに報道されるなど、異様な光景が常態化されながら、憲法改悪への策動が図られつつある。沖縄の普天間基地、辺野古、高江のヘリパット基地拡大、新型輸送機MV22オスプレ配備計画など、新たな軍事戦略のもとで、「友だち作戦」にみられるように、核戦争を想定した作戦遂行が、被災者支援の名の下行使された。他方アジア太平洋戦略見直しの元で、米軍再編、日米軍事同盟の強化と軍事演習が、沖縄負担軽減

を利用しながら、全国的に繰り返し替えられつつある。

西方重視の自衛隊の再配置及び再編が行われ、第7師団（東千歳）の90式戦車が、国道を自走し、フェリーやJR貨物輸送で大分まで運ばれ、軍事演習が行われるなど、列島横断をしてまで軍事戦略が遂行されている。三月四日から一二日までの間、陸自第5旅団第4普通科連隊と、白別演習場で軍事演習を遂行して来た米海兵隊員七〇人が、一二日、一五日まで、陸自東千歳駐屯地（第7師団）に秘密裏に滞在するなどの動きがある。滞在した内容は秘密扱いとされた。そんな最中、昨年までピースウォークを行って来た

いた、ほっかいどうピースネット、北海道平和運動フォーラム、安保破棄実北海道実行委員会行委員会の3団体は、さる三月二〇日、一二時より、札幌市中心街のPARCO前にて、雪舞い散る街頭で、街行く市民に向けて、ピーストークを行い、戦略的軍拡に突き進む事態を直視し、今後も訴えを続けていく決意を新たにしている。

（たにがみ・たかし／ほっかいどうピースネット）



国道を走る90式戦車

定点観測◎拡大版

岩国——海兵隊、オスプレイ、愛宕山売却

大月純子

二〇一二年二月六日、アメリカ政府が、グアム移転の見直し協議をめぐり、在沖繩海兵隊の新たな部隊一五〇〇人を岩国基地に移駐すると言う案を日本政府に打診していたことが報じられた。岩国市と山口県の問い合わせに対し、日本政府はそのような話はないと回答をしたが、山口県知事も岩国市長もこれ以上の部隊は受け入れられないとして、愛宕山の売却を留保を表明した。それを受けて、日本政府はアメリカ政府に対し、新たな部隊の岩国基地への移駐案については、受け入れられないと回答したことが報じられた。しかし、これまでも新たな部隊が岩国に移駐すると言う案が出されるたびに、日本政府はそれを否定するが、その一方で水面下で進められ、結果的に岩国に押し付けられてきた経緯から今後も新たな部隊の受け入れについては反対の声を上げ続けなければならない。

さらには、地元住民が反対し続けているにも関わらず、アメリカ政府は、今年秋には沖繩の普天間にオスプレイを配備するとしているが、それに先立ち、岩国や横田などに一時的にオスプレイを配備するという案が出された。これに対しても、岩国においても反対の声があげられているが、岩国市長は、機種の変更は留まるとして、オスプレイの配備を前提としており、岩国市民からは抗議の声があげられている。

それだけではなく、一度は留保された愛宕山開発事業跡地の売却についても、年度末を控えた三月二二日、岩国市長と山口県知事が上京し、日本政府が十分説明してくれたとして、留保を解除し、二三日には愛宕山の売却契約を結んだ。これに対して、愛宕山を守る市民連絡協議会を中心とした岩国市民が、二三日早朝から山口県庁を訪れ、抗議の声をあげた。しかし、山口県知事は、知事室から出てこようとしないうちに、結果的に定例記者会見をキャンセルしてまで、岩国市民の面会要請に応じようとはしないという不誠実な態度を取り続けた。

辺野古に新たな基地を作らせないと沖繩県民が声を上げ続けている一方で、日本政府は二〇一〇年四月一五日に沖合移設事業によって出現した岩国基地の新滑走路とその関連施設を米軍に提供し、さらには愛宕山までも米軍に提供しようとしている。

しかも、愛宕山に建設予定のスポーツ施設は身分証なしに市民も使用できるとしながらも、二〇一一年九月に行われた海上自衛隊の航空祭において、田村順玄岩国市議の入場を拒否し、二〇一二年五月五日に行われる岩国基地開放デー（フレンドシップデー）においては、入場者に身分証明書の提示を求めるとしていることが明らかとなった。すなわち、愛宕山に建設されるスポーツ施設は市民に開放されるとしながらも、結果的には米軍の都合で市民が思うように使うことができなくなることは明白である。そのことは、沖合移設事業の条件として、埋立地の北側に市民に開放するために設置された「パブリックアクセスロード」が保安上の理由で現在閉鎖されており、市民が使用できなくなっていることから明らかである。

このような現状から岩国基地沖合移設事業が「騒音と墜落の軽減」を目的に始められたはずなのに、次々と新たな部隊の受け皿とされようとしていることに対し、これ以上新たな部隊を絶対に岩国に移駐させてはならない。そのためにも、日本政府に対し、今後も引き続き、愛宕山に米軍住宅及び米軍関連施設を建てさせない。愛宕山を米軍に提供させないと言う動きを全国のみなさんと共に作っていかなければならない。今後も引き続きご支援いただきたい。

（おおつき・じゅんこ／ピースリンク広島・呉・岩国）